

子どもを大切にする施策を問う

吉田貞子

〔質問〕県内においてDVによる殺人事件が起きた。このような事件や被害はどこでも起きうる状況であり、行政の、女性及び子どもへの支援のあり方の再検討が必要。当市の子どもを育てる環境の変化、ひとり親家庭の数や貧困化、児童虐待や育児放棄などの現状について伺う。

前期次世代育成支援行動計画の次期への反映、総合的子ども支援の施策展開を伺う。DV基本計画（仮称）、DV被害者自立支援事業、予防教育の検討はないか、伺う。

〔答弁〕【市長】ふれあいプラザ内に相談員を配置し随時相談を行っているが、過去4年間の相談実績は1千98件で、全体の351件約32%がDVに関する相談となっており、若年層から中高年齢層と幅広く、相談内容により緊急を要するものについては、一時避難、福祉事務所、警察署、県女性相談センターと連携し対応している。

被害根絶のためには、男女共同参画社会推進の理念や個々の人格を尊重する啓発、幼児期からの取り組みにも十分配慮すべきであり、相手に言葉でものを伝える「コミュニケーションづくり」を大事にしなければならぬと考えている。

また、一人親世帯については就学前で6.4%、小学生では10.2%との報告もあり、児童への暴力、虐待については、福祉事務所が窓口となり、近隣、保育園、幼稚園、病院との連携により安全の確保につとめている。

学校支援ボランティアについて

佐久間 儀郎

〔質問〕本市の教育において、学校支援ボランティアの意義、教育振興等における位置づけ、活用について、『白石学校支援ボランティア制度』の内容、運用状況など、以下の諸点について伺う。
○募集の方法
○報酬の有無
○損害保険加入の有無

○不審者との区別、混同を回避するための処置
○活動の実際
○効果
また、制度と「学校支援地域本部事業」との係わりはどのようなものなのか、併せて伺う。
【その他の質問】
○地上デジタル放送への対応

○児童生徒のいじめ（問題行動）の現状と対策について
〔答弁〕【教育長】学校支援ボランティア制度は、校外活動や実践活動の補助として各学校単位で募集しており、無報酬であるが、ボランティア保険に加入いただいております。不審者との区別のため帽子・ジャンパーや名札の着用、パトロール車はステッカーにより対応している。活動の内容は、校外学習引率補助、農業体験など多数に及び、安全安心も含めて大きな貢献をいただいている。

また、学校支援地域本部事業とのかわりであるがこれまでの学校支援ボランティアは学校単位で全てを教頭らがコーディネートしてきたが、本事業はモデル地区である福岡地域の3校で登録いただいた方々のコーディネート専門のコーディネータが行う事業である。

さらに講習会等で質の高いボランティアの方々を育成する目的を含んでいる。

